

みんなでも考える

イノシシ問題

全国的に問題となっているイノシシ被害。市内でも、車と接触する事故が発生したり、農作物が食い荒らされたりするなど、イノシシによる被害は後を絶ちません。被害を減らすために、私たちはイノシシとどのように向き合っていけばよいのでしょうか。



▲イノシシによって荒らされたごみステーション



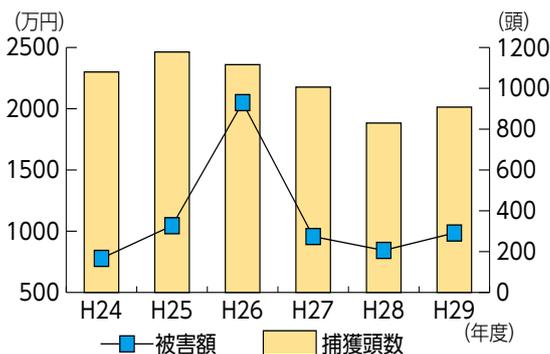
広がるイノシシの活動範囲

約10年前まで、市に寄せられるイノシシ被害の情報のほとんどが、住宅密集地から離れた農地や山の中などでのものでした。しかしここ数年、住宅密集地や市中心部での目撃情報が増え、「ごみステーションが荒らされた」「庭にイノシシが侵入している」「家庭菜園で育てた野菜が食べられた」などの被害が報告されるようになりました。イノシシの活動範囲は徐々に広がりをみせており、これまで目撃されていなかった地域でも、被害が発生することが考えられます。



イノシシがもたらす農業被害

イノシシによる市の農作物被害額は平成26年度にピークを迎え、約2千万円でした。その後、市はイノシシ対策のモデル地区を設定するなど、さまざまな取り組みを実施。ここ2、3年の被害額はピーク時よりも減少しましたが、依然として多くの農作物が被害を受けています。被害が続くことで、農業をやめる人が出たり、耕作放棄地が増えたりするなど、被害額として数字に現れる以上に、市の農業に大きな影響を与えています。



▲イノシシによる市の農作物被害額と捕獲頭数の推移

イノシシ被害の原因と対策を知る

イノシシの被害はなぜ発生するのか、防ぐためにはどうしたらいいのか。鳥獣被害対策の専門家に話を聞きました。

教えてくれたのは

広島県鳥獣被害対策
スペシャリスト いのうえまさてる
井上雅央さん



奈良県出身。独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構の近畿中国四国農業研究センターで鳥獣害研究チーム長を務めた。平成24年から広島県鳥獣被害対策スペシャリストとして県内各地で指導を行う。



人里に下りてくる原因は人間にある

イノシシの生息は数百年前から、何も変わっていません。「安心」して餌を食べることが出来る場所に現れます。イノシシの安心には2種類あります。

1つめは「人間は怖くない」と学習し、安心するパターンです。うり坊と呼ばれる小さいときに「かわいい」「珍しい」からといって、ついつい人間が餌を与えてしまう。これにより、イノシシは「人間は怖くない」と学習します。餌をもらったイノシシが大きくなって、子どもを産み、その子にも人間は怖くないと教える。こうして人里に現れる

イノシシが出来上がってしまいます。

2つめは、人里に隠れる場所を見つけ、安心するパターン。管理が行き届いていない庭や空き家などは、イノシシの「隠れ場所」になります。人間が無意識のうちに、そのような場所を提供してしまうことで、イノシシを安心させてしまいます。



気付かないうちに餌付けをしてしまっている

庭やあぜなどに生えるカキやビワの木に、収穫していない実があれば、格好の餌になります。拾われていないギンナンの実や、放置されているタケノコ・野菜もそうです。人が食べるために



▲未収穫のクリの実もイノシシの餌になります

植えられたものが、管理されなくなつたことにより、イノシシの餌になる。これは人間が「餌付け」をしていることと一緒です。

そればかりか、放置された果実などを食べたイノシシのふんから発芽して、人間が植えていない果樹がどんどん増えてしまいます。それに伴いイノシシも増えていき、悪循環に陥ってしまいます。



イノシシが現れない環境をつくる

「イノシシが悪い」と言っているうちは、対策は成功しません。イノシシが現れる環境があるということです。人間がそのような環境をどうにかしなければ、被害は収まりません。

まずは、自分の家や庭、畑の周りを歩いて見て回り、イノシシが隠れることのできる場所はないか、餌になりそうな果樹はないかを確認してみましよう。

次に隠れる場所や餌となる植物を手

入れましょう。生け垣の枝葉が地面まで伸びて覆われていたら、枝葉を刈り込んで、見通しを確保する。餌になりそうなカキやビワがあれば、伐採したり、剪定したりするなどです。自分たちにできることから始めてみましょう。



▲隠れ場所になりそうな茂みは刈り込んで見通しを確保しましょう



イノシシ対策は住民が主役

全国的に見て、イノシシ対策に成功している地域は、住民が主役となつて取り組んでいる地域です。三原市内にも「自分たちの地域や畑は自分たちで守る」という認識で対策を行い、成功している地域があります。そういう地域の取り組みを参考にするのも良いでしょう。何から始めていいかわからない場合は、市の担当者に相談してみましよう。

地域と畑を自分たちで守る

みんなの力で島を守る
 ～鷺浦町内会の皆さん～



▲鷺浦町内会(佐木・須ノ上・向田地区)の皆さん

佐木島にイノシシが現れ始めたのは約15年前。ミカンの木が折られたり、畑の野菜が食い荒らされたりするなど、徐々に被害は広がっていきました。ワイヤーメッシュ柵を設置するなど、個人で対策を行いました。被害は収まらず、畑だけでなく集落にも現れるようになりました。

町内会の皆さんは「人が襲われ、けがをしたこともあった」「イノシシとの接触で、車が何台もやられた」と当時を振り返ります。イノシシ被害を減らすため、島内の3地区が協議し、対策を実施。合同で対策委員会を立ち上げ、箱

わななどで対応しましたが、被害がなくなることはありませんでした。

そのような中、市が主催する勉強会が6年前、島内で行われました。鳥獣被害対策の専門家から「捕獲するだけでは、被害はなくならない。イノシシが出にくい環境をつくるのが大切」ということを教わりました。

皆さんはイノシシ対策についての勉強会を定期的に行うとともに、餌場になつていた木を伐採したり、廃棄する果実や生ゴミの管理を徹底したりするなど、島全体で対策に取り組みました。活動を続ける中で「学んだことを忘れないよう、マニュアルを作ると良いのでは」という声が上ががり、独自の対策マニュアル本を製作。島内に配布しました。

努力のいかいもあり、「被害は激減した。集落の中でイノシシを見ることはほとんどなくなった」と成果を実感する皆さん。「これからも、みんなの助け合つて対策を行いたい」と力強く話します。



▲自分たちで製作したイノシシ対策マニュアル本

「自分たちの地域や畑は自分たちで守る」。市内にはそのような考えのもと、イノシシ対策に取り組んでいる人たちがいます。

イノシシの習性を学んで対策する
 ～農事組合法人むくなしの皆さん～



▲農事組合法人むくなし
 代表理事 澤田博行さん(左)
 高村民政さん(右)

大和町椋梨の農事組合法人むくなしは、地域内の約70戸で構成され、水稲やハトムギ、キャベツなどの生産に力を入れています。

椋梨地区では約10年前、イノシシなどの獣害を防ぐため、山際に沿ってワイヤーメッシュ柵を設置しました。「とにかく柵をすれば、出てこないと思っていた。それが大きな間違いだった」と代表理事の澤田博行さんは話します。

設置後しばらくは被害が少なくなり、山から離れた田畑にもイノシシが現れるようになり、深刻な被害をもたらすようになりました。同法人の高村民政さんは、「毎日どこかがやられている状

態。収穫できない田畑もあつた」と振り返ります。壊された柵の修理費など、経費はかさむばかり、まさにイノシシと根比べをしている状況でした。

そのような中、獣害対策のアドバイザから助言を受けられる機会があることを市の研修会で知り、手を挙げることを決意しました。

アドバイザーを地域に招き、イノシシの習性や柵の設置方法などについて学習。隠れ場所となつてきた柵周辺や茂みの草を刈ったり、電気柵を導入したりするなど、対策を行いました。「正しい対策の方法を学び、実践したことで被害が減つた」と澤田さん。その後も勉強と実践を続け、現在では、法人が管理している田畑以外にも対策のアドバイスを行なっています。「獣害対策は法人だけではできない。地域全体で取り組むことが大切」と2人は笑顔で話します。



▲協力して電気柵を設置します

イノシシQ&A

市への問い合わせが多い項目を、Q&A形式で紹介します。

Q夜行性ですか

A夜行性ではありません。人間を避けるため、人の気配の少ない夜に現れることが多いですが、餌を求めて昼夜問わず活動します。



▲日中に餌を探すイノシシの様子

Qどのような物を食べますか

Aイノシシは雑食性です。カキや水稻など植物の物はもちろん、昆虫の幼虫やサワガニなどの動物の物も食べます。廃棄する野菜や生ごみなども餌になるため、注意して管理しましょう。

Q遭遇したらどうすればいいですか

A刺激しないようにゆっくりとその場を離れましょう。後ろを向くと襲ってくる場合があるので、背中を見せないように後退しましょう。イノシシが興奮し、近付いてきたときは、進路をふさがないように気を付けながら、安全を確保しましょう。

Qわなを使って捕獲してもいいですか

Aわなを使ってイノシシを捕獲するためには、狩猟免許が必要です。免許を持っていない人がわなを設置することはできません。捕獲する必要がある場合は、市に相談してください。



Qイノシシ対策として光やにおい、音は効果がありますか

A警戒心が強いので、一時的には効果が見込まれます。しかし、慣れてくると、効果が薄れてきます。イノシシが現れにくい環境づくりを進めましょう。



イノシシ被害に負けない まちをめざして

「イノシシ問題なんて自分たちの地域には関係ない」「農家の問題なので」などと思っている人もいるかもしれませんが、

しかし、イノシシの活動範囲が広

イノシシ対策に取り組む地域をサポートします

市ではイノシシ対策に取り組む町内会などをサポートしています。気軽に相談してください。

【地域で取り組むイノシシ対策の流れ】

①まちづくり出前講座の依頼

市にまちづくり出前講座の開催を依頼しましょう。市の指導員が地域を訪問し、イノシシの生態や有効な対策についての講座を行います。



▲まちづくり出前講座の様子

②地域内の点検

指導員と一緒に地域内を歩いて見て回り、イノシシの餌になっている植物がないか、隠れ場所はないかなど、現れる原因を調べましょう。



▲指導員と一緒に地域内を点検

③現れにくい環境づくり

餌になっている果樹の伐採・せんてい剪定や隠れ場所になっている茂みの刈り込みなど、イノシシが現れにくい環境づくりを行いましょう。指導員もアドバイスを行います。

④効果の検証

地域内で実施した対策の効果を検証しましょう。必要に応じて対策の見直しを図りましょう。

圃農林水産課

☎0848・67・6081

りを見せる中、被害に遭う可能性はどの地域にもあります。イノシシ問題をまち全体の課題として捉え、個人で、そして地域でできることから始めましょう。